Ⅰ　すくすくガイド改訂の趣旨

（１）乳児から２歳児までの内容の充実

平成２９年３月に改定された保育所保育指針においては、乳児から２歳児までの保育の意義がより明確化され、内容の一層の充実が図られました。乳児から２歳児までは心身の発達の基盤が形成される上で極めて重要な時期であり、主体的に周囲の人やものに興味をもち、直接関わっていこうとする姿はまさに「学びの芽生え」であり、生涯の学びの出発点と言えます。

そこで、これまで「６か月未満」「６か月～１歳３か月未満」「１歳３か月～２歳未満」としていた「すくすくガイド」の章立てを、「乳児」「１歳児」に再編し、内容の充実を図りました。

（２）５歳児・移行期及び幼保小連携活動の内容の充実

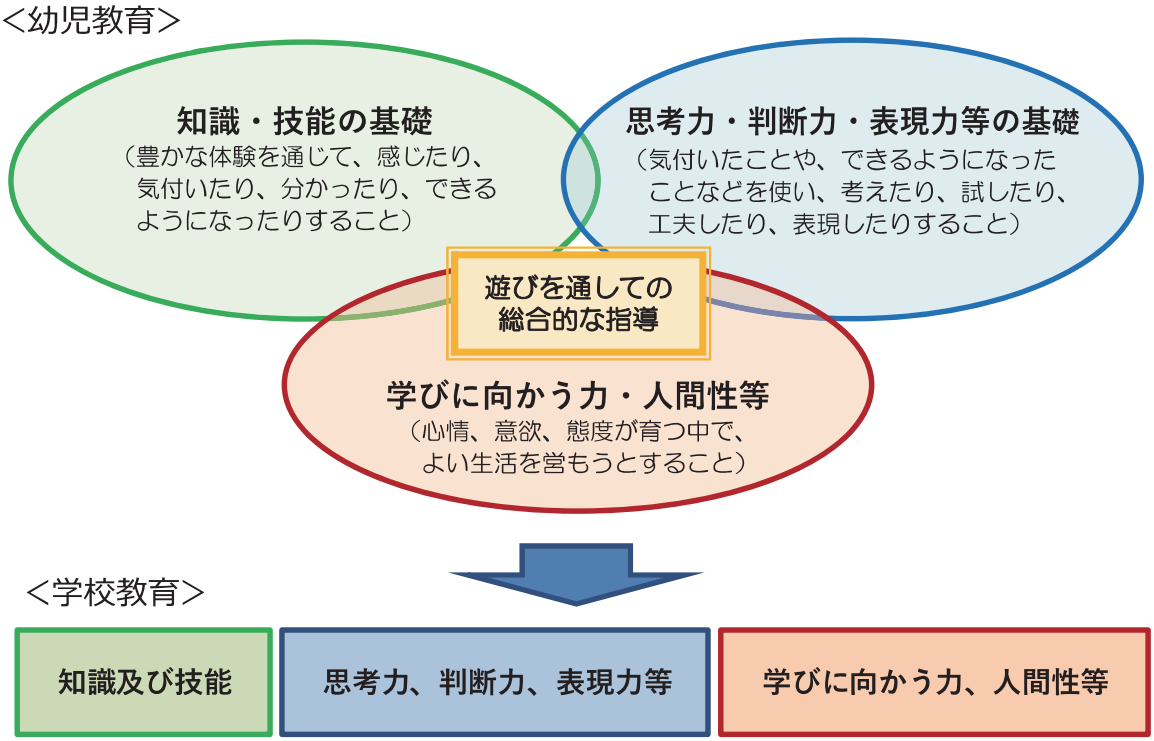
平成２９年３月に改訂（定）された、「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」では、幼児教育において育みたい資質・能力が統一的に明示されるとともに、学校教育において育みたい資質・能力との整合性が図られ、そのつながりが明確化されました（※１）。さらに、幼児期にふさわしい遊びや生活を積み重ねることを通じて幼児期の終わり頃に現れる具体的な姿を、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」（※２）として就学前施設の要領・指針に示し、この姿を手がかりとして保育者と教員が子どもの姿を共有するなど、幼児教育から小学校教育への円滑な接続の重要性が強調されました。

そこで、すくすくガイドの５歳児・移行期の記述を充実させるとともに、「あだち幼保小接続期カリキュラム」の策定など足立区の新たな施策を追記しました。

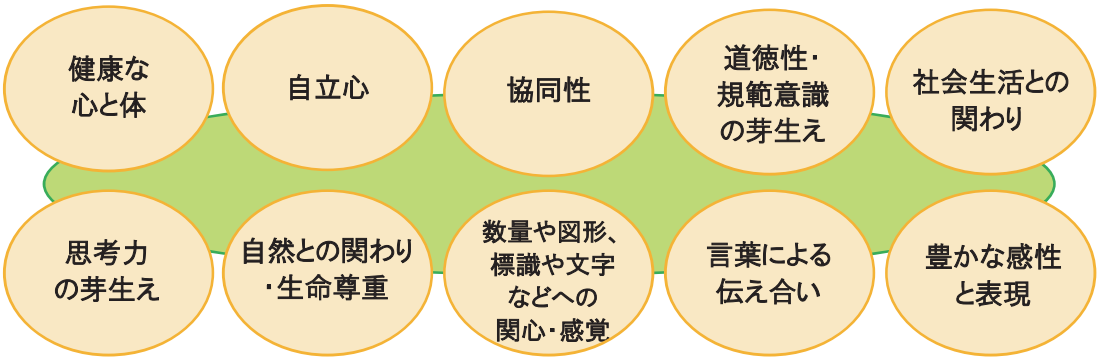
（３）読みやすいデザインへの変更

保育者や教員をはじめ、誰もが読みやすいデザインや色使いに改めました。

※１　幼児教育において育みたい資質・能力（３つの柱）



※２　幼児期の終わりまでに育ってほしい姿



＜留意点＞

- 到達すべき目標ではなく、幼児の発達していく方向を表したものです。
- これらの姿は一人一人の発達の特性に応じて育っていくものであり、全ての幼児に同じように見られるものでも、個別に取り出されて指導されるものでもありません。
- ５歳児だけでなく、３歳児、４歳児の時期からこれらの姿を念頭に置き、それぞれの時期にふさわしい指導を積み重ねていくことが大切です。